

-----  
■ さろん | Mail News 2017/5/15 | #91 ■ 【読み物号】

ご案内不要の方はお手数ですがこのメールにそのままご返信ください。

-----  
哲学カフェ及び関連イベント情報をお送りします。みなさんの興味・関心の一助としていただくとともに、今後とも「さろん」を応援いただければ幸いです。

なお、このメールニュース掲載のコラム等は執筆者の個人的な考えを表したものです。会や専門領域における統一見解や事象を扱っているものではありません。予めご了承ください。

=====Vol.91 2017年5月15日(月)=====

さ | ろ | ん |  
└ ─ ─ ─

M | a | i | l | N | e | w | s |  
└ ─ ─ ─ ─ ─ ─ ─ ─ ─

<http://salon-public.com/>

(バックナンバーはHPからご覧いただけます)

<https://twitter.com/salontetsugaku>

<https://www.facebook.com/salontetsugaku/>

=====

☆『さろん仙台ツアー参加募集中!』☆

仙台ツアーは現在参加者を募集中です。ぜひこの機会に弊社スタッフと一緒に  
仙台市まで遠征し、現地での弊社例会や親睦会、哲学枕投げ、地元の哲学カフェ  
などで楽しみませんか？

・日程：6/17(土)から6/18(日)まで

・概略旅程：

1) 6/17(土) 午前～15時まで：各自で仙台市へ移動

2) 同日 午後(15時～予)：さろん哲学 at カフェモーツァルト・アトリエ

<http://mozartatelier.jugem.jp/>

参加費；1,300円/人

(含：ケーキセット+運営費300円/人)

3) 同日 夕刻：親睦会(場所・会費：後報)

4) 同日 宿泊：晩翠亭いこい荘

<http://www.ikoisouryokan.co.jp/index.html>

- 4人部屋あるいは3人部屋の予定

注；部屋は参加人数により変更の可能性有

- 夕食なし/朝食付き

・料金：一泊 8,300 円/人予定+運営費 200 円/人

5) 同日 夜(希望者のみ)：哲学枕投げリターンズ at 旅館の部屋

6) 6/18(日) 午前～15 時まで：自由行動

7) 同日 15:00～17:30 : てつがくカフェ@せんだい at smt\*1

<http://tetsugaku.masa-mune.jp/>

\*1) smt ; せんだいメディアテーク

<http://www.smt.jp/>

8) 同日 18:00 頃 : 現地解散

・定員：7～8 名程度まで

上記の旅程は全体のフルメニューですが、個別単独のイベントだけの参加も可能です。参加の希望や、お問合せなどはお気軽に下記までご連絡をお願いします。

・仙台ツアー実行委員長宛て； [salontetsugaku@gmail.com](mailto:salontetsugaku@gmail.com)

仙台ツアー実行委員長 堀越

## INDEX

【おしらせ】(5/23) 座談ゆるみ庵カフェ「やる気がでないときってどうしてる？」

【1】コラム/エッセイ

◇『「かわいい」から「エロス」について想う』

【ご案内】「さろんラボ」企画を募集しています

【2】コトバをハーバリウムする

【3】さろんアーカイブの遊歩道

編集後記

## CONTENTS

### 【おしらせ】

(5/23) 座談ゆるみ庵カフェ

テーマ「やる気がでないときってどうしてる？」

通称『ゆるカフェ』。地味に営業中です。

今月のテーマは「やる気がでないときってどうしてる？」。

5月23日(火) 19:30-21:30 オープンです。

今月も例によって例のごとく少人数で集まって、ゆったり考えたり感じたり聞いたりしてみます。

ゆるっと奏でる月イチのセッション、お気軽にいらしてください。

定員5名まで

5月23日(火) 19:30より

渋谷エリア(申込者にご案内)

参加費100円(別途、注文した飲食費実費をお支払いください)

お申込み: salontetsugaku@gmail.com

(幹事: せりざわ)

---

## 【1】コラム/エッセイ

▽【「かわいい」から「エロス」について思う】 一生

---

▽【「かわいい」から「エロス」について思う】 一生

東京大学名誉教授で哲学者の藤本隆志氏はこう語る\*1。「…ふつう『エロス』と称される愛は、ローマ神話の『クピードー』(英語のキュービッド)に相当する恋の名射手に象徴されるような『つま(妻、夫)恋い』のことであって、いわゆる道ならぬ恋をも含む異性愛をその原義としている。それはその『願い』の対象を獲得しようとする心の働きであって、その願いの成就をひたむきに求めることである。…しかし、プラトンにとっての『エロス』概念は、上のような原義に立ちながら、けっしてそれに留まるものではなかった。プラトンは、感性的なものから出発しながらも、それにとらわれた臆見から信念や思惟を経て、ついには絶対的な形相(イデア)へ至る真知への探求の道を弁証法として開示するような、知に対するエロスの重要な役割を認知していた。それは私的な各自の臆見を公的に確認された知識にまで高めようとする原動力なのであった。プラトンにとっては、『エロス』は肉体的のみならず精神的にも『形相』という永久にして善美なるものの永遠の所有を希求する心の働きだったのであって、それなくしては人間が人間らしくない『異邦の野蛮人』になってしまうような動因だったのである」。

デザイナーの堀畑裕之氏は次のように述べる\*2。「『なにもなにも、小さきものはみなうつくし(なんでも小さいものって、みんなかわいい)』。清少納言は『枕草子』でそう書いている。平安時代までの古い日本語では、『うつくし』は『美しい』という意味ではなく、『愛らしい』『かわいい』ということだった。「…古来『かわいさ』は、人々を和ませ、疲れた心を癒やす不思議な力をもっていた。それは相手におもねった幼稚なかわいさではなく、むしろ心の武装を解いてしまう強い力があった。例えば、赤ん坊のほほえみは大人たちを自然と笑顔にする力があり、小さく可憐な草花もそれ自体がしなやかな生命力を持っている。一見正反対に思える『かわいさ』と存在の『強さ』とは、本来ひとつなのではないかと思う」。

プラトンによれば「エロスとは美しい対象へのあこがれ」ということではないか。3月の弊会の哲学対話では「『かわいい』と言われることは『(自分が)モテている』ことと同じと考えているので、嬉しい」という見解が挙げられた\*3。プラトンが考えるエロスでは「かわいい(≒美しい)」と感

じた主体はその対象にあこがれを抱いている」となり、「Aはかわいい」との言明は「(かわいい)と言った発話者はAにエロスを感じた」と解釈ができる。ここで注意したいことは、あくまでもここで語られているエロスの概念は「かわいい」や「美しい」であって、性的あるいは官能的という点はあまり意識がされていないのではないかという点である。先月弊会の対話ではこの概念を「私的な各自の臆見を公的に確認された知識にまで高めようとする」純粋な試みであり、まさにプラトンのエロスの対話であったと今にして思う。ところで以前から気になっているのだが、昨今巷で多用される「エロい」という言葉をプラトンが聴いたらどう思うのであろうか。

\*1：井上忠、藤本隆志、他著：「倫理 愛の構造」

\*2：朝日新聞 2017年1月12日：堀畑裕之『『うつくし』かわいさと強さ』

\*3：さろん哲学：第79回議事録(2017年3月18日)

[http://salon-public.com/wp-content/uploads/2017/04/salon\\_giji\\_79.pdf](http://salon-public.com/wp-content/uploads/2017/04/salon_giji_79.pdf)

---

#### 【ご案内】

「さろんラボ」ではみなさんのやる気とアイデアを募集しています♪

名称：【さろんラボ】

コーディネーター：【大村】

「さろんラボ」、常設しています。

このさろんラボではみなさんの「やってみたい」を核に、「さろん」を触媒にして、どんな化学変化が起きるかを試みる場所です。さろんラボは当面継続して設けていきます。

この「さろんラボ」からは、さろんの参加者の手で、

【さろんラボ 001】 「あたまの中を散歩するてつがくカフェ」

<http://sanpo-tetsugaku.jimdo.com/> が生まれ、

【さろんラボ 002】 「哲学カフェ Ante-table/アンティ・テーブル」

<http://ante-table.wix.com/ante-table/> も生まれました。

既存の哲学カフェのカタチに限定せず、みなさんの中で温まっている関心ごとやご興味を添えて、どうぞお気軽に下記までご連絡下さい。みなさんとの新しい化学変化を、スタッフ一同心から楽しみにしています。

▽詳細はこちらまで

salontetsugaku@gmail.com (担当：大村)

---

#### 【2】

コトバをハーバリウムする #19 (た)

---

---

本のコトバから

---

「ジッパーがボタンに代わり、おかげで人間は夜が明けて服を着るあいだ、ものを考えるたったそれだけの時間もなくなしてしまった——哲学的なひととき、いくなれば愁いのひとときを」

——レイ・ブラッドベリ(著) 伊藤典夫(訳) 『華氏451度』

---

歌のコトバから

---

I look inside myself and see my heart is black  
I see my red door I must have it painted black  
Maybe then I'll fade away and not have to face the facts  
It's not easy facin' up when your whole world is black

内に目を向けると 心は真っ黒だ  
赤い扉は黒く塗りつぶさなくてはならない  
そしてきっと消えいくだろう 事実を直視しなくてすむように  
世界が黒ければ 真実と向き合うことは容易ではないんだ

——THE ROLLING STONES 『Paint It Black』

---

【3】

---

さろんアーカイブの遊歩道 #13 (楠)

---

カテゴリ: 【さろん哲学 議事録】 第55回

テーマ: 「寛容」

開催日: 2015年3月21日

[http://salon-public.com/wp-content/uploads/2016/12/salon\\_giji\\_55.pdf](http://salon-public.com/wp-content/uploads/2016/12/salon_giji_55.pdf)

納得できないこと、気に入らないことに対してすぐに反発する人を様々なコミュニティで見かける。そういう人を見かけると「元気だなあ」と(皮肉ではなく)感心してしまう。

僕は嫌なこと、苦手な人に出くわしても「しょうがない」で済ましてしまうことが多い。何故かといえば楽をしたいからである。怒ったり反論したりすることにエネルギーを使いたくないからである。そのまま受け容れてしまうべきではない考え方や振る舞いというのは勿論ある。しかしそれについて指摘を行うのは一旦受容してからでも遅くは無い。

様々な国や地域で異なる価値観への反発と排除の動きが活発になり、寛容の何たるかが根本から問い直されるべき時代に僕達は生きている。寛容を人々の間に浸透させるには、それが少し手を伸ば

せば手の届くような、実践しやすいものである方が良い。ならば寛容とは利他的である前に利己的なもの、自分が気楽に生きる為の知恵と考えるのはどうだろうか。

---

---

## 編集後記

メールニュース第91号をお届けします。

こんにちはフクロウです。

私ほんとは夜行性なんですが、テツガクの世界ではヘーゲルさん以来、黄昏に飛び立つかどうかばかりが注目されてしまって。でも私ほんとはフクロウ目フクロウ科フクロウ属に分類される猛禽類なんです。

よく間違われる知鳥に”ミミズク”っていうのもいるんですけど、あっちはフクロウ科のうち羽角(いわゆる「耳」)がある種の総称です。で、さいきんはその知鳥のミミズクまで、黄昏に飛び立つかどうか話題にされてしまってるみたいで。ブンガクの世界の村上さんと川上さんは「みみずくは黄昏に飛びたつ」とはっきり断言してるようです。

<https://www.amazon.co.jp/dp/4103534346/>

ミミズクと顔をあわせる度に、「うちら夜行性なんだけどなあ」ってぼやいてます。

『君の名は。』風に黄昏は薄ぼんやりと仄かに彼方が見える”誰そ彼”時とかそういう話じゃないし、別に、黄昏は昼なのか夜なのかとか考えたってわけじゃないんですよ。テツガクの世界を舞い飛ぶフクロウからしてみると、テツガクと非テツガクの境い目の方が気になります。あっちの空も気ままに飛んでみたいなあ。ほう。

さて。いよいよ一か月後の6/17-18には仙台ツアーが開催されるようです。

6/18(日)にsmtで開催されるてつがくカフェのテーマは「いま、『選ぶこと』の意味を問い直す」に決まりました。

<http://table.smt.jp/?p=13618>

てつがくカフェ@せんだいさんが書かれたテーマの背景を少しだけ引用しますね。

『震災から6年という時間は、考えようによっては厄介な時期と言えなくもありません。というのも、震災直後からこれまで、わたしたちが〈選択〉してきたこと／してこなかったこと、〈選択〉が許されなかったこと／〈選択〉を許さなかったことなど、「選ぶこと」に関わるそれぞれの違いが具体的に目に見えるかたちで、ひとつの結果として(その〈選択〉が正しかったのか誤りであったのかも含めて)現れ始める時期だからです。』

朝さろんでは来月まで〈震災と〈わたし〉のあいだ〉というテーマで東日本大震災に関連した小説を読んでいます。きのうの読書会で取り上げられていた『ボラード病』という小説は、架空の罹災事故による避難から8年振りに故郷にもどったひとたちの暮らしがモチーフです。集団的で狂信的

な復興を遂げた海塚市には、監視社会にも似た同調圧力が蔓延しています。その中でどうやって”確かなもの”を護り、育ていけるか——というのが小学5年生の女子児童の眼をとおして描かれています。

読者は「じぶんが●●の立場だったらどうふるまうだろう？」と何度も考え、その過程をつうじて、じぶんの弱さ(vulnerability ; 可傷性・暴力誘発性・傷つきやすさ)と向き合うこととなります。作者の吉村さんはこの作品について【「最良の問い」を提示したかった】と語っていました。

<http://www.kansai-square.com/kaiho/168.pdf>

みなさんもこの6年数ヶ月のあいだに大震災についてさまざまなことを感じたり、考えたり、アクションをされてきたとおもいます。終わりのない問いを抱えつづけることは時として大きな重荷にもなりますが、たまに、おなじ問いを抱えているひとたちとのあいだで対話してみたりすると、終わりのない問いが違ったまた顔を見せるかもしれません。そして〈わたし〉のなかの何かがすこし変わったことに気づくのではないのでしょうか。

さてさて。

来週土曜のさろん哲学、テーマは「不倫は許されないのか」です。不倫はゼウスがヘラに怒られていた遠い昔からの定番のお題のひとつですね。さいきんの不倫ブームの再燃は文春方面が火付け役みたいですが。

<http://forzastyle.com/articles/-/48244>

より幅広い世代や考え方の方たちと話し合ってみたいテーマですね。ご参加をおまちしています。

それではまた次号でお会いしましょう。ほう。

編集: (フクロウ)

さろん | Mail News 2017/5/15

⇒次号 (6月1日発行予定)

---

さろん Mail News 第91号 / 2017年5月15日発行【読み物号】

編集・発行: さろん

[salontetsugaku@gmail.com](mailto:salontetsugaku@gmail.com)

<http://salon-public.com/>

<https://twitter.com/salontetsugaku/>

<https://www.facebook.com/salontetsugaku/>

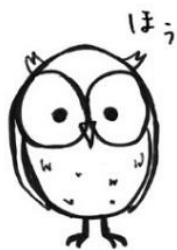
- 
- ◇ 「さろん」にお知らせいただいたお名前・メールアドレスなどの個人情報は、当会からのご案内のためだけに使用いたします。  
また、ご本人の同意なく第三者への提供はいたしません。
  - ◇ 「Mail News」の無断転載はご遠慮ください。転載ご希望の場合はご連絡願います。  
バックナンバーはHPからご覧いただけます。
  - ◇ 【Twitter】 <https://twitter.com/salontetsugaku/>
  - ◇ 【Facebook】 <https://www.facebook.com/salontetsugaku/>

◇ 【ホームページ】 <http://salon-public.com/>

「さろん哲学」 Web サイト <http://salon-public.com/tetsugaku/>

「朝さろん」 Web サイト <http://salon-public.com/asa/>

「さろん工房」 Web サイト <http://salon-public.com/koubou/>



"copyright (c) 2011-2017 さろん. All rights reserved."

---